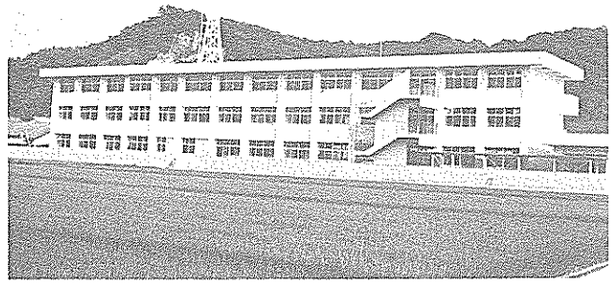
事務改善のための庁内組織設置

6月定例市議会

行政のいっそうの効率化めざす

稲生小、七月に新校舎完成

六月定例市議会は六月十五日開会、一二三日までの九日間の日程で開かれ冒頭、六月二日急逝された橋本一二三議員に対する追悼の辞が行われました。今議会に提案された議案は、五十九年度一般会計補正予算（三千百二十万円）など二十八件、報告九件で、いずれも可決、承認されました。



ほぼ改築工事も完了、7月末には新校舎でスタートする稲生小

小笠原市長は提案理由の説明に先立ち、四月から五月までの市の動きについて、次のように報告をしました。（要旨）

《行財政》

行財政の状況は依然として厳しく、この中で多様化する市民の行政需要にこたえるため、行政の刷新に努めなければなりません。このため、四月から新しく参事制を設けるとともに、行財政改革の庁内組織として行財政事務改善委員会を設置し、行政のいっそうの効率化を推進すべく検討に入っています。

また、近く行政と民間で構成する市振興計画審議会委員を新しく委嘱し、七月ごろから審議に入るよう準備を進めています。なお、総合計画については内容を検討しながら、現在全体的見直しを行っています。

五十八年度の出納閉鎖の結果、実質収支で二億二千百八十一万円の黒字見込みとなりました。しかし、開発公社への支払いは目標の二億円に達しておらず、また事業の不執行などが黒字の要因で、後年度の負担を考えると、決して安易に喜べるものではありません。

《同和》

小集落地区整備事業は、五十八年度から繰り越しとなっている、九億四千六十六万円の事業を主体に進めています。改良住宅の宅地造成、道路用地の買収などをすすめ、五十九年度事業も一部着工しています。

《学校建築》

五十八年度から継続施行の稲生小改築は、計画通り七月完成の運びです。十市小改築は、地盤の問題などで着工が遅れていますが、年度内完成を図るよう作業を進めています。

《その他》

「未来の農業」をテーマに展示し、独自のパビリオンで参加した黒潮博は、予想以上の入館者を迎え、これを機会に農業はもとより商工業、観光産業の発展を図る努力をしなければなりません。

四国横断自動車道も、本格的な建設工事が始まり、天行寺地区での土地買収も終わって、本線工事に入るとのことです。先日、地元の要望で、土捨て場について現地を視察しましたが、今後この利用について真剣に検討したいと考えています。

なお、橋本一二三議員の死去によって、高知空港対策特別委員長に島内正雄議員、議会運営委員長に浜田健夫議員がそれぞれ互選されました。

一般会計補正予算の主なもの

《補正額三千百二十二万円》

○中央老人憩の家の建築に伴う付帯工事費百十二万円並びに同和対策事業費一千二十四万円

○準用河川明見川改修工事の用地取得費一千九十二万円

○大篠小グラウンド夜間照明設置工事費四百六十万円

この補正で、今年度一般会計予算の総額は百四億六千三百五十一万円となりました。

十市小改築

年度内完成をめざす

一般質問

六月定例市議会での一般質問は十八日から三日間、堀川溝渕（健）、浜田、徳橋、小沢、岡林、井上、竹内、山岡、高島、今井の各議員が、市長の政治姿勢や阿佐線の問題などについて、執行部の考えをただしました。執行部の主な答弁は次の通りです。

◪新しく庁内組織として設けた、行財政事務改善委員会は、吉本助役を長として、特別職、課長、係長など十三人で構成している。主に財政再建について具体的な方策を考えていくもので、今後は分科会なども設け、職員の適正配置や民間委託問題など、機構についても検討していく考えだ。

議会の財政再建審議会については、特別な問題点がなかったので、しばらく休んでいたが、近く再開したい。

◪先日、岩手県の三陸鉄道を視察して来たが、県と地元の積極性や実業界の協力など、こちらとは状況が大きく違っている。

第三セクター参加へ、本市だけが反対の立場はとりにくく、赤字の問題について、県がどれくらい責任を負うか、はっきりする必要がある。参加については、議会の特別委員会の結論を尊重したい。

◪開発公社への負債返済は、当初予算に計上できなかったが、このままで済ますつもりはない。

比江山に誘致した車両中継基地で、公社への負債金利の一部軽減となっているが、抜本的な策ではなく、今後、早い時期に有利な処分をしたい。

◪吾岡山の公園化は五年をめどに進めている。再カットに伴う排水対策として、戸井川、明見川の改修費を計上、順次その執行に努力していく。

◪小集落地区整備事業について、毎年積み残し事業があり、遺憾に思っている。スタッフも精力的に取り組んでおり、今後の進展に期待している。

住宅新築資金の滞納は、現在三千万円近くあり、それぞれの事情を十分調査した上で、市としても厳しく対応していく考えだ。

◪し尿処理場建設の場所は、まだはっきり決まっていない。建設するとなると、試算では約十六億五千万円くらい必要で、市費が四億三千万円程度。年間経費は一億五千万円くらいと考えられる。

◪香南清掃組合ゴミ焼却場建設の際、移転補償費を支払いながら、土地の所有権移転登記が行われておらず、事務処理がずさんだったことを深くおわびする。今後、組合会議で明確にして、対処する。

◪久礼田地区公民館は、当初予算にも計上し、今年度建設の予定だったが、通産省の工場再配置に伴う補助金が困難になり、今年度は見送らざるを得ない。来年度になんとかめどをつけたい。

◪社会体育人口も増加しているが、本市のスポーツ施設は極めて貧弱であり、現在学校施設の解放などで対応している。市民体育館の利用も多く、建設予定の大篠小体育館を、社会体育にも対応できるような規模でと考えている。

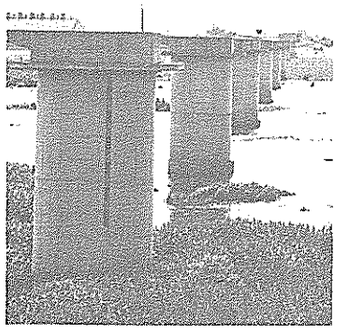
◪十市小改築は、地盤の問題などで遅れていたが、六月末には設計を完了、七月の臨時議会に諮り、取りかかる予定だ。

◪企業誘致には、受け皿となる場所が必要だが、本市は市街化調整区域がほとんどで、土地確保が難しい。今後、調整区域の見直しが必要だと考える。

条件付きで第三セクター加入」

阿佐線対策特別委が決める」

昨年十二月に発足、審議を重ねていた市議会の阿佐線対策調査特別委員会（高島邦明委員長）は、六月二十一日会を開き、条件付きで第三セクターへの加入を決めました。



阿佐線建設には、まだ多くの問題が残る＝物部川に建つ橋脚

その条件は、①四国循環鉄道の一環として、当初の国鉄計画による方線（暫定計画については関係者の了解を得ること）によって、国鉄後免駅へ接続。東部は徳島県牟岐線に接続する②路床は高架にする③駅舎、駅前広場、進入路などは地元負担の伴わない方法で整備する④関係自治体の出資負担割合を見直す⑤県は基金を設立し将来の赤字に対応する⑥沿線住民に公害のない鉄道施設、経営を行うの六項目。

六月二十三日の議会最終日には、「六条件を付けて加入するものと決した」と委員長報告がされ、議会で承認されました。これによって当委員会は、今議会をもって解散することになりました。

阿佐線建設は、東部開発にとって大きな役割を持つものですが、本市にとっては、財政が厳しい中での赤字負担や計画ルートの用地確保の問題などがあり、厳しい条件が付けられたものです。

今後は、これらの条件が『阿佐線建設問題協議会』で、どう反映されるか注目されています。